

(様式2)

校種	④・中 どちらかに○	学校番号	13	学校名	宇都宮市立峰小学校
----	---------------	------	----	-----	-----------

## 令和5年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・ 国語の「読むこと」では、4年が市の平均を7.3ポイント、5年は1.6ポイント上回り、6年は9.4ポイント上回った。日々の学習において、文章の大意を捉えて読むことを意識して指導してきた成果と言える。また、「書くこと」では、4年が市の平均を11.2ポイント、5年が15.6ポイント上回った。また6年の学習内容定着度調査においては4.8ポイント上回った。昨年度の調査結果を踏まえて指導してきた成果が見られるので今後も引き続き、テーマや字数などの条件に合わせた作文指導に取り組むとともに、読み取った内容について自分の考えを書くような指導を取り入れ、一層の表現力の育成に努める。
- ・ 算数は、各学年すべての領域において、市の平均を上回った。特に、「数と計算」の市の平均は、4年が12.1ポイント、5年が9.3ポイント、6年が4.1ポイント上回った。「データの活用」においても、市の平均を4年が7.5ポイント、5年が9.6ポイント、6年が5.8ポイント上回った。今後さらに、学習したことを活用して解決を図るような問題場面や学習課題を意図的に設定していく。
- ・ 社会では、6年の学習内容定着度調査において、「日本の政治」で、市の平均を10.6ポイント上回った。その他、すべての領域で市の平均を上回った。今後も、基礎的な事項をしっかりと押さえるとともに、自分の考えを深めるための話し合い活動を取り入れた授業を展開していく。
- ・ 理科では、「物質とエネルギー」において、市の平均を4年が7ポイント、5年が5.9ポイント上回り、6年は「エネルギー」の領域で4ポイント上回った。また、「生命・地球」では、市の平均を4年が7.6ポイント、5年が4.7ポイント上回り、6年は「地球」の領域で11ポイント上回った。観察・実験を行う際に、予想や計画を立て学習の見通しをもたせるとともに、観察・実験の結果を基に、判断した根拠や理由を説明できるようにする。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 「授業の始まりには席に着いている」「話を最後まできちんと聞いている」については、全学年において肯定割合が89%以上だった。3～6年の「授業を集中して受けている」については、全学年において肯定割合が90%以上であった。引き続き、地域学校園内で共通して、「授業開始前に次の学習準備」「あいさつ（語先後礼）」「返事」を重点的に指導し、よい学習習慣が身に付くように努めるとともにコミュニケーション能力の更なる育成に努める。
- ・ 「宿題はきちんとやり、期限までに提出する」は、全学年で肯定割合が87%を上回ったが、3～6年の「自分で計画を立てて学習に取り組んでいる」の肯定割合は、4・6年が市の平均を上回っているのに対し、3・5年は市の平均を下回った。家庭学習の計画の立て方や進め方などの指導を明確化して、今後より一層家庭と連携し、家庭学習を推進することにより、確かな学力の定着を図る。

(3) 授業等への取組状況から

授業への関心・意欲が高く、課題に真面目に取り組むことができる。また、自分の意見を発表しようとする意欲も高く、「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」と回答する児童も多い。中・高学年の「インターネットやパソコンを利用して学習に関する情報を得ている」「パソコンのキーボードを使って文章を入力することができる」「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」と回答する児童が多いことから、これまで学校課題に「ICTを活用して、児童の主体的な学びを育てる授

業の工夫」を掲げ取り組んできた成果として、ICT機器を活用するための基礎的な力はついてきたと考えられる。

特に、一人一台端末の導入により、ICTを活用する機会が増えたことが影響していると思われる。上記のような実態を踏まえ、より一層ICTを計画的・効果的に活用することにより、児童が学ぶことに興味・関心をもち、見通しをもって活動しながら自力解決ができる力の育成を図っていく。

## 2 今年度の重点目標

- (1) 基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の育成を目指して、教材やICT等を効果的に活用した授業、デジタル・シティズンシップの育成、問題解決的な学習の充実、家庭学習の習慣化、教科担任制の導入に向けた体制作り。
- (2) 「宇都宮モデル」を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の授業を工夫し、「できた」「分かった」が実感できる「楽しい授業」を展開するとともに、個に応じた指導の充実を図る。

## 3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和5年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

- (1) 基礎・基本の確実な定着を目指した日々の学習とまとめの学習の充実
  - 地域学校園統一の掲示資料の活用や、教材を活用した聞き取り、発声のトレーニングと適切な評価による話の聞き方、話し方の技能向上（通年）
  - 教材やICT等を効果的に活用した授業・改善、デジタル・シティズンシップの育成、問題解決的な学習の充実（通年）
    - ・ ノートの使い方や発表の仕方などの基本的学習技能の定着（通年）
    - ・ 「できた」「分かった」が実感できる「楽しい授業」の展開と個に応じた指導の充実（通年）
  - 目標やめあてに基づき学んだことを振り返る活動の充実と、振り返りを意識した学習展開の工夫、AI型ドリル等の計画的な活用、学び合える活動等の工夫（通年）
  - 「思考力」「判断力」「表現力」の育成を目指した日々の学習とまとめの学習の充実（通年）
  - 「学習の約束」を活用した次の授業の準備、チャイム着席、返事、授業開始終了の挨拶（語先後礼）の徹底（通年）
  - ★□ 「家庭学習の手引き」「家庭学習計画カード」の活用や「家庭学習がんばり週間」の実施による家庭学習の習慣化（通年）
  - ★□ 各種学力調査結果を踏まえての復習やまとめの学習の実施（通年）
- (2) 読書活動の充実
  - 朝の読書タイムの確実な実施による読書活動の推進（週2回）
  - 読書の推奨や自分の読書活動を振り返る「みね読書人」の取組（通年）
    - ・ 読み聞かせボランティア（モーニングブック）による読書活動の推進（月1回）
    - ・ 親子で読書を楽しむ「家読（うちどく）」の推進（夏休み・冬休み）
- (3) 「コミュニケーション能力の育成」を図るための授業研究
  - 自分の考えをもったうえで、友達と積極的に意見を交流し、自らの考えを修正したり深めたりできるよう協働して課題に取り組む態度の育成（通年）
  - ★○ 望ましい人間関係に根差した「考え、議論する」授業研究（通年）
  - コミュニケーション能力の育成を目指した「一人一授業」の公開（通年）
- (4) 家庭・地域との連携・協力
  - ・ 保護者懇談会における学習内容定着度調査、学習と生活についてのアンケートの結果を生かした学習指導の説明及び家庭学習の大切さについての啓発
  - ・ 宮っ子ステーション「峰の寺子屋」

- 学校支援ボランティアの活用（学習支援，環境整備，安全指導等）
- 「街の先生」，宇都宮大学のボランティアなどの協力を得た授業や学習支援の実施